

氏 名	LENNIE ALLAN CAMPBELL (レニー アラン キャンベル)		
学位の種類	博 士 (芸 術)		
学位記番号	甲第 19 号		
学位授与日	平成 20 年 3 月 23 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
論 文 題 目	リトグラフィ版画の表現 ベニヤによるリトグラフィ版画への言及		
審 査 委 員	主査 教 授	本 江 邦 夫	
	副査 教 授	近 藤 秀 實	
	副査 名誉教授	小 作 青 史	
	副査 町田市立国際版画美術館		
		主任学芸員 佐 川 美 智 子	

内 容 の 要 旨

現代の画家と次世代の人々のために何と広く、有益な分野が開けてきたことか。 (中略)
手短かに言えば、芸術や商業部門にリトグラフィが広範囲で大きく役立っていることが少なくない。

R. Ackermann 1819 (自訳)

石版印刷と石版画の技術は 200 年間の比較的短い歴史の中で大いに多様化した。現在はデジタル印刷時代だが、石版「リトグラフィ」の技術はいまだ出版や広告業界の活力源である。I.T. 産業にもリトグラフィは関係しており、それはマイクロチップを製造するためである。美術分野では、現在の版画家は石版の技法範囲が広がっていることから主に石版の起源である「石」に代わり、主に金属、プラスチック、紙のプレートを利用している。冒頭で引用した文 (アル・アカマンによる 1819 年アロイス・ゼネフェルダーのリトグラフィ (1771-1834) 専門書の英訳本の序文) で示したように、約 200 年前からリトグラフィの多様な使用が可能であることはよく知られていた。

多摩美術大学版画部と小作青史教授が最近発達させた木版リトグラフィの方法 (主にベニヤによるリトグラフ) は、私の研究課題、そしてこの論文の一部からわかるように意外なことではないといえる。なぜなら 19 世紀初頭にゼネフェルダーは木の表面からもリトグラフを製作できる可能性を理論立てていたからだ。ゼネフェルダーはリトグラフィの技法を科学的な原理で理解したいたので、彼はさまざまな材料から版を作って、さらに *Chemischer Druck* 「化学印刷」と呼ぶよう主張した。リトグラフィの中心にこ

の化学原理があるからこそ、石以外の木や他の材料からリトグラフを製作することが出来るのである。

ゼネフェルダーの専門書は2部に分かれており、第1部はリトグラフィの起源について、第2部は印刷家のための技術的な指導書である。リトグラフィの歴史と技術の相を研究すると、その相互関連がすぐ明白になる。そして私も、ゼネフェルダーと同じような2部構成の論文を考えた。第1部は歴史、第2部では実践についての記述である。第1部ではリトグラフィと美術的發展によって木版リトグラフィが受けた影響とその周辺について記述する。

私の経歴は一風変わっているかもしれない。1980年代スコットランドで学部学生時代にリトグラフィを学び、それから卒業の後8年間ほど独立して、木版画を製作した。その時期私はリトグラフィの方法に興味を失っていなかったが、後にインターネットで多摩美術大学のホームページを見た時、木版リトグラフに関する説明を見つけ、木版を作る際にリトグラフィを混合できる可能性があると思い付いた。その後日本で版画の勉強を進めるにつれて、ついに私は木版とリトグラフィの技術に関するだけでなく、木版リトグラフィには本当に多くの版画技法があることを理解した。加えて、面白い点は木版リトグラフィ発見の原点とその後の利用は現在も美術の領域だけに存在することがある。他の版画の発見はたいてい初めに印刷業から生じている。

リトグラフィの初期の歴史から私は新しい美術の技法としてのリトグラフィを人々がどのように受け入れたかを熟考した。石版の技術を用いた当初、批評家たちの意見は賛否両論に分かれた。その時代、石版を使う画家が初めて版に直接下絵を描くことができるということは、彫刻の専門家である職人にとっては脅威であった。しかしその技法は画家にとっては新しい表現の可能性を大いに実現するものであった。

20世紀に続いたリトグラフィ版画は美術世で高い地位を維持した。リトグラフィの順応性ゆえに多くの画家は版画の媒体の中でもリトグラフィを選んだ。リトグラフィは20世紀の主要な美術の特色となっている。次に1860年代、リトグラフィが日本に初めて伝わった初期の事情について考える。その時代日本には世界で一番洗練された多色木版画産業があった。さらに私は明治時代に入り込んだリトグラフィの影響も調べ、続いて、20世紀と以降の版画と特にリトグラフィの媒体の状況を調査する。日本で木版画の伝統と技法はまだ強く続いており、そして日本の木版技法と木版リトグラフィは製作の方法においても共通しているところがあるが、それは意外なことではない。

日本では数こそ少ないが種々の画家と版画家の集団が木版リトグラフィを利用し製作している。これらの画家の木版リトグラフィ版画の例を調査することによって、媒体の広範囲における有益性を示したいと思っている。この版画の方法はまだほんの手始めの段階であるので、画家と版画家は製作をする時は個々の取り組みをする。

この論文の2部では、木版リトグラフィに特有の技術に集中する。版画家のため私は木版リトグラフィの技術について詳細に記述する。以前に言及したように、木版リトグ

ラフィは多数の技法を持つが凹版、木版とリトグラフィの技法はいかに多く結合の可能性があるかわかった。美術版画世界では銅版の起源、20世紀のシルク・スクリーンの起源でも実情ははっきりしない。それに対してリトグラフィの歴史はいつも完全に記録された。このように私は美術のリトグラフィについては木版リトグラフィの重要な発展の含めて考えることが大切と思っている。